

天童城(舞鶴城)(指定無)(天童市天童)(天童公園・愛宕神社)

天童城（てんどうじょう）は、山形県天童市天童にあった日本の城（山城）。

概要

山形盆地の中東部、独立丘の舞鶴山に築かれ、別名舞鶴城、天童古城。東西 1000 メートル、南北 1200 メートルの範囲に及ぶ村山地方最大の山城。また、標高 231.8 メートルの山頂部に主郭を置き、現在は愛宕神社が建つ。この下には、帯曲輪が巡り、要所には幾重にも段状の曲輪が連なる。城跡の大部分は天童市舞鶴山公園となっている。なお、天童織田氏の城館は区別して天童織田館と呼ばれる。

歴史

南北朝時代、北畠天童丸が居を構えたとされるが、文中年間（1372 年～1374 年）最上氏の圧力により天童城を去ったという。最上直家の子天童頼直が養子として成生楯を本拠とする里見氏に入っていたが、天授元年/永和元年（1375 年）、天童城に移り天童氏を称した。その後天童氏は一門を領内に分散配置することで村山郡に大きな勢力を築き、最上八楯の領袖として次第に最上氏と対立した。天正 5 年（1577 年）最上義光は天童城を攻め、天童氏は最上八楯の援軍を得て最上軍を撤退させるが、天正 12 年（1584 年）最上義光がまたも攻めると延沢信景などの寝返りにより落城。廃城となった。

天保元年（1830 年）天童藩主・織田氏が入り、陣屋は、天童の田鶴町に置かれた（天童織田館）。行政面を重視した近世後期の城郭であったが、戊辰戦争の際焼失した。

歴代城主

北畠氏

- 北畠天童丸 - 北畠顕種。北畠顕家の子孫とも、北畠顕信の子孫ともいう。文中年間（1372 年～1374 年）最上氏の圧力により天童城を去ったとされる。

斯波氏系天童氏

- 天童頼直 - 最上直家実子。里見義宗（斯波兼頼末弟。）の養子に入る。成生楯から北畠天童丸の去った天童城に移る。その後天童氏を名乗ったとされる。
- 天童頼勝 - 里見修理大夫
- 天童頼泰
- 天童頼基
- 天童頼氏
- 天童頼尚
- 天童頼道 - 中務少輔
- 天童頼長 - 式部少輔
- 天童頼貞 - 和泉守
- 天童頼澄 - 甲斐守

廃城(諸説あり)

Wikipedia による



主郭



主郭の愛宕神社

